【担当教員名】	対象学年	t	対象学科	作業
○山田まりえ	開講時期	前期・後期	必修·選択	必修
	単位数	1	時間数	30

<一般目標:GⅠO>

解剖学川では、特に運動器について骨学、関節・靭帯学、筋学に系統的に分け、それぞれについて名称、位置、構造、機能、 ならびにそれらの相互関係を理解する。

<行動目標:SBO>

- 1. 骨格系の機能を概説できる。
- 2. 全身の個々の骨を見分け、名称を言える。
- 3. 椎骨に共通の基本構造、また頚椎・胸椎・腰椎各々の特色を理解し、説明できる。
- 4. 椎間円板または脊柱弯曲の意義について説明できる。
- 5. 体肢の骨格では上肢・下肢を比較しながら、各骨の細部の名称を言える。
- 6. 骨の連結の種類を形態学的に分類し、説明できる。
- 7. 関節の形態的な分類と代表例を説明できる。
- 8. 体肢における滑膜性連結と靱帯について説明できる。
- 9. 筋組織の種類、形態学的特徴と機能について理解し、体内の分布部位を説明できる。
- 10. 骨格筋の構造とその付属器について概説できる。

回数	授業計画又は学習の主題			SBO				
						番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員	
1	骨学1-6	骨とは	骨学総論	講義				
~		骨学各論	頭蓋 脊柱	胸郭	上肢	下肢	3, 4	n
6							5	"
7	関節・靱帯1-6 関節・靱帯総論						6	n
~		関節・靱帯を	各論 頭蓋の連	結 脊	主、脊柱	と頭蓋の連結	7	"
12		上肢の連結 下肢の連結						"
13	筋学1、2	筋学総論					9	"
14	•						10	"

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発	行年·価格	・その他>
教科書	理学療法士・作業療法士	・言語聴覚士のための解剖学	渡辺正仁	廣川書店	2000年	5500円
参考書						
その他の資料						

【評価方法】

【履修上の留意点】

出席状況・態度、小テスト、筆記試験 の総合評価

不定期に小テストを実施します。総合評価に入れますので、欠席をしないよう 注意すること。勉学範囲が広いので日頃の勉強が重要です。